

都市環境としての大江戸の水系と海岸

著者	正井 泰夫
雑誌名	筑波大学人文地理学研究
巻	4
ページ	93-95, 図2枚
発行年	1980-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00155175

都市環境としての大江戸の水系と海岸

正 井 泰 夫

I 中世における水系

III 海岸変化

II 幕末期における水系網

現代的巨大都市東京の都市生活環境は、水系と海岸の利用形態に如実に現われている。その場合、江戸城築城以来の江戸の実態を考察することは、きわめて有意義であると思われる。

I 中世における水系

内藤昌は、その『江戸と江戸城』¹⁾の中で、『長禄年間江戸図』および『合考荏土覽古図』による江戸一帯の地形と水系の図を提示している。この図は正確性にかなり欠けるため、現在の地形に大縮尺の精度で置きかえることはむづかしい。しかし、大ざっぱな位置はほぼ推定できる。図1は、筆者が作成した『幕末の江戸の土地利用』²⁾に、当時の主な水系等を記入したものである。いうまでもなく、海岸線の形状も大きく異っており、日比谷入江が大きく入りこんでいた。太田道灌による最初の江戸城の築城は1457年のことで、まだ戦国時代には入っていなかった。当時の江戸城は、徳川家によるものよりもはるかに小形で、現在の皇居東御苑（本丸跡）にあった。ここは山手洪積台地の突出部で、北に下平川の谷があり、南に千鳥ヶ淵から流れてくる川があった。

当時の江戸は、ほとんど町らしい様相を呈していなかった。築城は町の建設を特に伴わなかったからである。しかし、若干の村落は存在した。また、のちに有名になった浅草寺・増上寺・善福寺・本住院・目黒不動・山王権現堂などは、もうその時に存在していた。

幕末の江戸の範囲で考察すると、当時の水系には、隅田川をはじめ、いくつもの川があった。隅田川の河口には、すでに2・3の中州があり、また千潟もひろがっていた。しかし、現在の石川島（当時は向島）から外は完全な海であった。隅田川の河口部周辺には湿地帯がひろがっていた。また、千束池と呼ばれた湿地帯は沼状を呈しており、下谷から浅草方面へかけて約3kmも続いていた。三河島一帯も低湿であった。

山手台地には数多くの開析谷が刻まれていた。上野・本郷台地の間の谷には、現在の約2倍ほどの規模の不忍池があった。千鳥ヶ淵は当時から池であり、また、溜池も湿地にある池であった。飯田橋から水道橋にかけても大池と呼ばれる沼地があった。古川が大きく屈折する一の橋一帯にも、かなりの規模の湿地帯があった。

当時の水系で、現在と大きく異なるのは下平川である。妙正寺川の下流に当たる下平川は、大池のところから一橋をへて日本橋方面へ南東流し、隅田川と河口で合流していた。神田山（駿河台）の北側

を切る外濠は、江戸時代に入ってから人工的につくって神田川へ連絡させたものである。

当時の小水系の大部分は、今日では暗渠となっており、都市生活環境におけるアメニティとしての利用はほとんど不可能となっている。暗渠とならなかった比較的大きい川も、その大部分の水際が、アメニティ的利用には適さない利用形態となっている。

II 幕末期における水系網

130万を大きく上回る大人口をかかえていた大江戸は、山手台地と隅田川等の沿岸の低地とからなっていた。人口の面では、圧倒的に低地利用型であったが、これは、当時の他の日本の都市と共通である。

大江戸の水系網は、大きく3つに分類することができる。①隅田川河口部一帯の稠密な水路網、②山手台地の開析谷の水系、③江戸城の濠。

隅田川河口部一帯の水路網は、自然河川によるものは少数で、大部分は人工的につくられたものである。低湿地なので、排水が必要であった上、埋立地では始めから排水路を構築した。水路網はさらに水運にも大いに利用された。その中でも、蔵前・竹蔵・舟蔵・靱蔵などのような幕府直轄の港湾倉庫施設は目立った。隅田川下流・河口部は、大きな河港として機能していたのである。

倉庫業的機能の1種として、深川の木場の存在は特筆に値しよう。ここでは、木材の貯蔵のために大小多数の池がつくられた。もちろん、ここでは木材の取引も行われたために、単に倉庫業機能のみを強調するのは当を得ていない。いずれにせよ、海拔高度1m以下の低い土地の多かった木場一帯では、盛土のために穴を掘り、それが池となって利用されたのである。

江東地区には直線状の水路が何本も見られる。堅川・横川・小名木川・仙台堀などが知られている。北割下水・南割下水のように、排水目的を明示した水路もあったが、いうまでもなく、これらも水運に利用された。

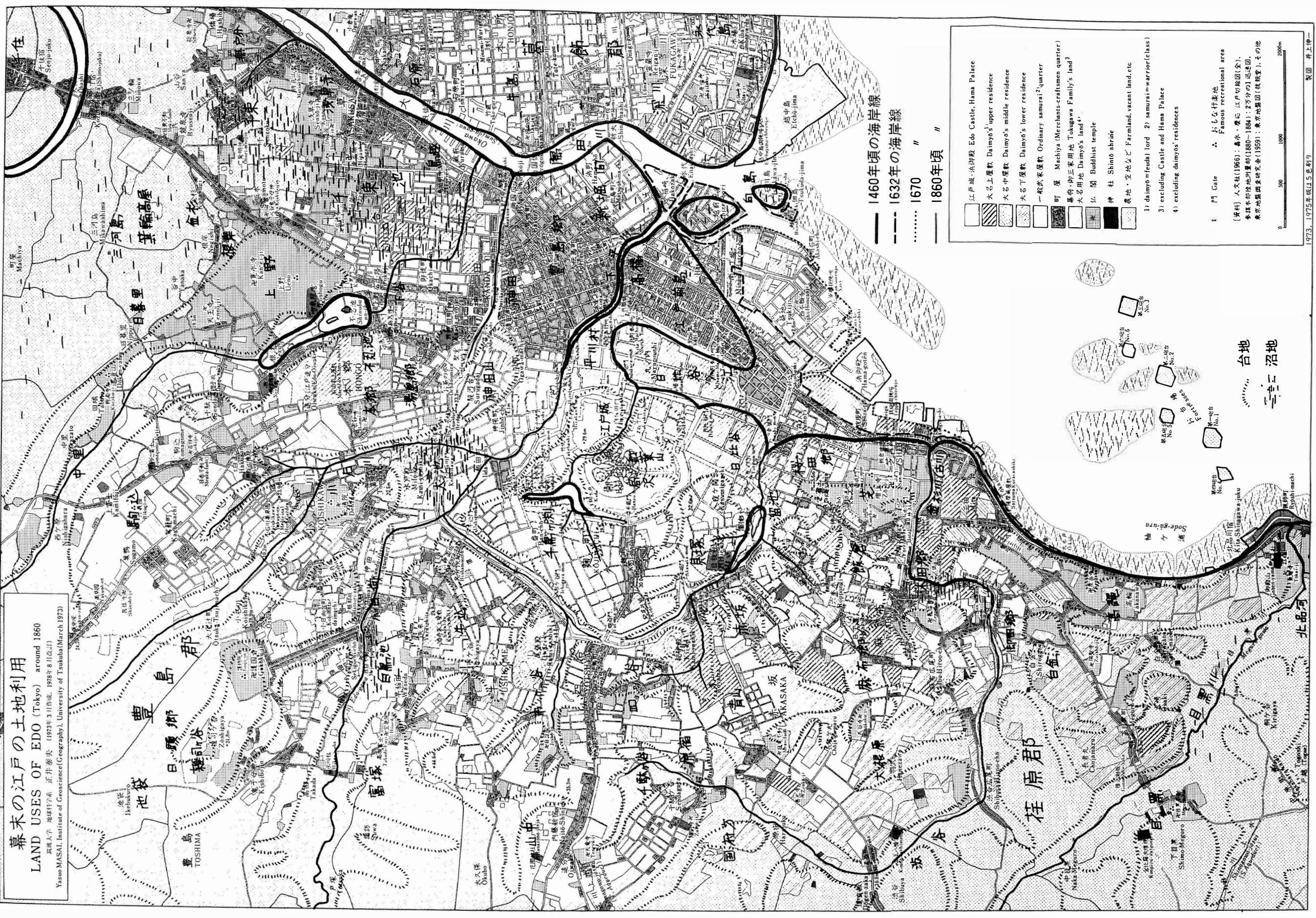
隅田川以西の低地にも、きわめて密な水路網がつくられていた。日本橋・江戸橋をつなぐ水路は特に重要で、都市としての江戸の中心を流れていた。水産国の特徴として、大規模な魚河岸が日本橋から江戸橋辺りへかけて存在していた。

人工水路の多くは、排水および水運に大いに利用されたが、防御目的のものも少なくなかった。城の濠は別としても、いくつかの大名屋敷や寺は、環濠形式をとっていた。これは泥棒・外敵・火災を防ぐためのものであると同時に、景観美化の役割も果たしていたと思われる。

山手台地の開析谷の水系³⁾は、神田川のようにかなり人工化されたものもあったが、他の多くは、まだ自然河川の状態を示していた。そのため、洪水をしばしば受けた。小石川台地の南麓には、江戸川(妙正寺川)より分流した神田上水が流れていた。また、西からきた玉川上水は、新宿の大木戸の所で南へ曲り、渋谷川をへて古川へ流下した。これらの上水から多数の小水路が分流していたことは、いうまでもない。

江戸城をとりまく濠は、大きく内濠と外濠に分けられる。内濠は、本丸をとりまくものと城全体をとりまくものとの二重構造を示していた。台地をきざむ開析谷を利用して内濠がつくられたが、盛土

幕末の江戸の土地利用
 LAND USES OF EDO (Tokyo) around 1860
 筑波大学 地理学系 正井泰夫 (1973年3月10日版, 1978年8月11日改訂)
 Yasuo MASAI, Institute of Geoscience(Geography), University of Tsukuba(March 1973)



江戸城: 天守殿 Edo Castle, Hama Palace
 大名上屋敷 Daimyo's upper residence
 大名中屋敷 Daimyo's middle residence
 大名下屋敷 Daimyo's lower residence
 一般武家屋敷 Ordinary samurai's quarter
 町屋 Machiya (Merchant-craftsmen quarter)
 幕府・御三家用地 Tokugawa Family's land³
 大名用地 Daimyo's land⁴
 仏閣 Buddhist temple
 神社 Shinto shrine
 農地・空地など Farmland, vacant land, etc.

1) daimyo=fudai lord 2) samurai=warrior(class)
 3) excluding Castle and Hama Palace
 4) excluding daimyo's residences

門 Gate
 おもむき地 Famous recreational area

[資料] 人文社(1966): 幕末・明治 江戸の地図(全), 参謀本部陸地測量部(1880-1884): 2万分の1 速達図, 東京地盤調査研究会(1959): 東京地盤図(積層型), その他

0 500 1000 2000m
 1973. 1975年版(15色刷) 製図 井上伸一

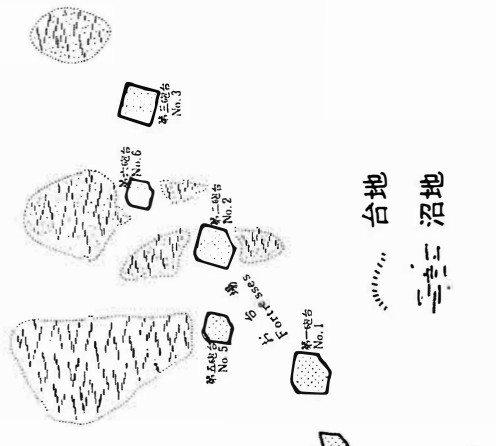
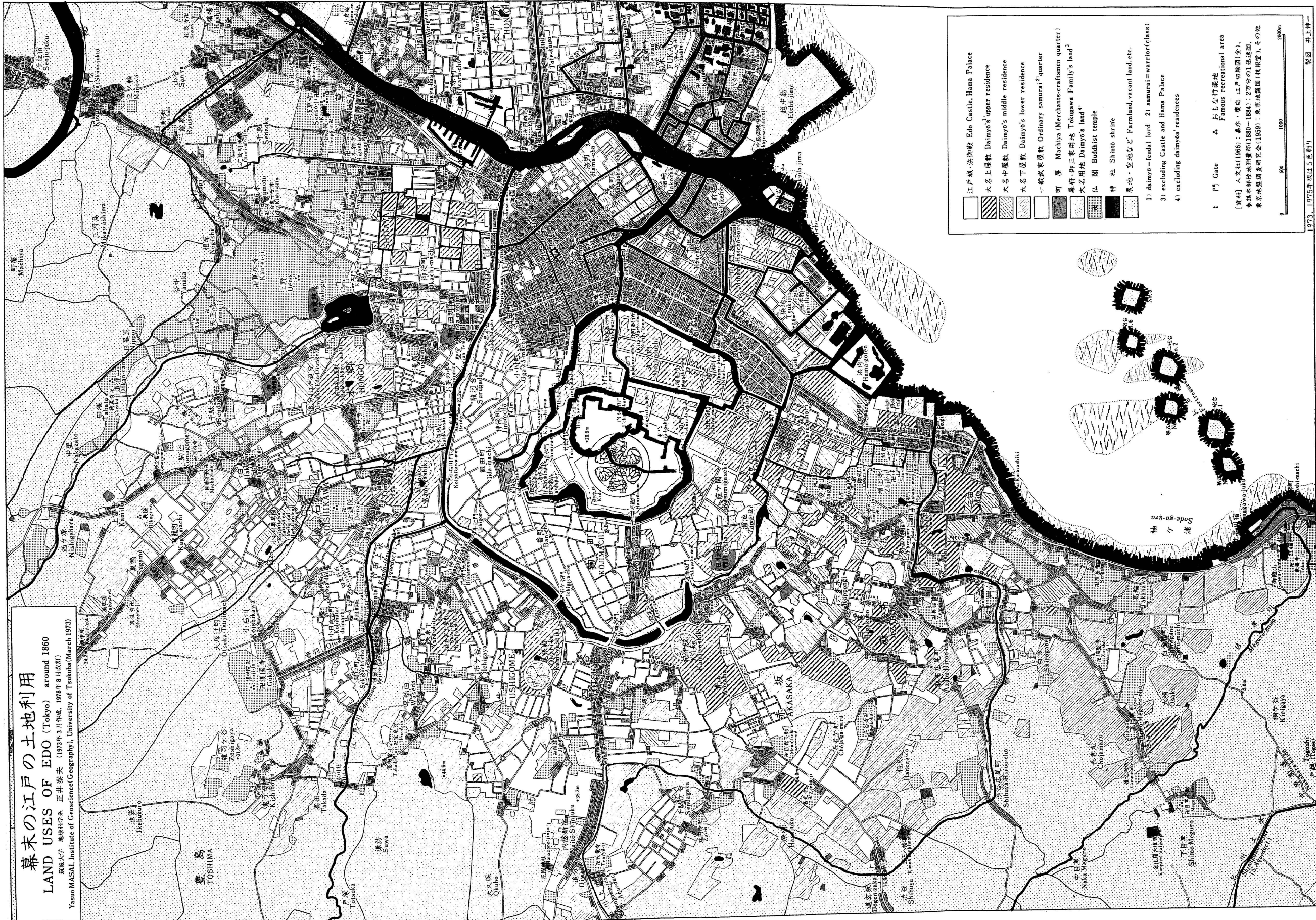


図1 江戸の地形と水系(1460年頃; 確認すみのみ)と海岸線の変化

幕末の江戸の土地利用
 LAND USES OF EDO (Tokyo) around 1860
 筑波大学 地理学系 正井 泰夫 (1973年3月作成, 1978年8月改訂)
 Yasuo MASAI, Institute of Geoscience (Geography), University of Tsukuba (March 1973)



	江戸城・法御殿 Edo Castle, Hama Palace
	大名上屋敷 Daimyo's upper residence
	大名中屋敷 Daimyo's middle residence
	大名下屋敷 Daimyo's lower residence
	一般武家屋敷 Ordinary samurai's quarter
	町屋 Machiya (Merchants/craftsmen quarter)
	幕府・御三家用地 Tokugawa Family's land ³
	大名用地 Daimyo's land ⁴
	仏閣 Buddhist temple
	神社 Shinto shrine
	荒地・空地など Farmland, vacant land, etc.

1) daimyo = feudal lord 2) samurai = warrior(class)
 3) excluding Castle and Hama Palace
 4) excluding daimyo's residences

! 門 Gate ☆ おもひな行楽地 Famous recreational area

[資料] 人文社(1966): 幕末・慶応 江戸切絵図(全), 参謀本部陸地測量部(1880-1884): 2万分の1迅速図, 東京地盤調査研究会(1959): 東京地盤図(後編等), その他

0 500 1000 2000m

図2 幕末における大江戸の水系網

